

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第5号を下記のとおり発表したの送付します。

令和2年度病害虫発生予報第5号

令和2年8月5日
岡山県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち(中生種、晩生種)	—	多
	穂いもち(極早生種、早生種)	—	多
	紋枯病	—	やや多
	白葉枯病	並	並
	穂枯れ(早生種、中生種)	—	やや多
	ニカメイガ	並	並
	セジロウンカ	—	やや多
	トビイロウンカ	早	多
	イチモンジセセリ	並	並
	コブノメイガ	—	やや多
	カメムシ類	—	やや少
ダイズ	べと病	—	並
	紫斑病	—	並
	ハスモンヨトウ	—	やや多
モモ	モモハモグリガ	やや遅	やや少
	ナシヒメシンクイ	—	並
	ハダニ類	—	やや多
ブドウ	さび病	—	やや多
	褐斑病	—	やや多
	べと病	—	やや多
	ブドウトラカミキリ	並	並
	フタテンヒメヨコバイ	並	並

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
キュウリ	べと病	—	やや少
	うどんこ病	—	少
	褐斑病	—	やや多
トマト	疫病	やや遅	やや少
	葉かび病	—	並
ダイコン	軟腐病	—	並
アブラナ科野菜	キスジノミハムシ	—	やや少
野菜共通	アブラムシ類	—	やや多
	ミナミキイロアザミウマ	—	並
	ハスモンヨトウ	—	やや多
キク	ハダニ類	—	並

1 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 **多**

予報の根拠

ア. 7月27～28日の巡回調査によると、県南部地帯の発生圃場率は75.0%で平年(38.6%)より高かった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

病虫害発生予察注意報第4号(7月29日発表)参照

(2) 穂いもち (極早生種、早生種)

予報内容

発生量 **多**

予報の根拠

ア. 7月27～28日の巡回調査によると、県北部地帯の葉いもちの発生圃場率は40.0%で平年(12.7%)より高く、中部地帯は75.0%で平年(39.2%)より高かった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

病虫害発生予察注意報第4号(7月29日発表)参照

(3) 紋枯病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

- ア. イネの茎数は、平年よりやや少ない傾向である。
- イ. 7月27～28日の巡回調査によると、発生圃場率は24.4%で平年（13.0%）よりやや高かった。
- ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

- ア. 昨年多発生した圃場では伝染源が多いと考えられるので、圃場をよく観察し、適切に防除を行う。

(4) 白葉枯病

予報内容

- 発生時期 並
- 発生量 並

予報の根拠

- ア. 7月27～28日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。
- イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

- ア. 台風による暴風雨や豪雨による浸冠水は本病の発生を助長し、急激にまん延する場合があるため、豪雨により浸冠水した圃場では、発生状況をよく観察し、適切に防除を行う。

(5) 穂枯れ（ごま葉枯病菌による穂枯れ：早生種、中生種）

予報内容

- 発生量 **やや多**

予報の根拠

- ア. 7月27～28日の巡回調査によると、県内全域での葉におけるごま葉枯病の発生圃場率は10.0%で平年（5.0%）よりやや高かった。
- イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件となる。

(6) ニカメイガ（第2世代幼虫）

予報内容

- 発生時期 並
- 発生量 並

予報の根拠

- ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、7月5半旬までに誘殺は認められず、平年（0頭）並であった。
- イ. 7月27～28日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(7) セジロウンカ

予報内容

- 発生量 **やや多**

予報の根拠

- ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、19頭で平年（59.1頭）より少なかった。
- イ. 7月27～28日の巡回調査によると、発生圃場率は87.8%で平年（36.7%）より高く、すくい取り（20回振り）調査での成幼虫数は81.1頭で平年

(28.7頭) より多かった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生時期 **早**

発生量 **多**

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、1頭で平年(0.1頭)より多かった。

イ. 7月6～8日の巡回調査によると、すくい取り(20回振り)調査での発生圃場率は30.0%で平年(1.0%)より高く、成幼虫数は0.33頭で平年(0.01頭)より多かった。

ウ. 7月上旬に発生を確認したのは、直近10年では、多発した平成25年、令和元年の2回で、本年の発生時期は早い。

エ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 圃場をよく観察し、要防除水準(成幼虫合計で株当たり10頭以上又は短翅型雌成虫で株当たり0.2頭以上)を超える圃場では、直ちに防除を徹底する。

イ. 本虫は圃場内に局在し、また稲の株元に集中するので、より多くの稲の株元を丁寧に観察する。

ウ. 病害虫発生予察注意報第3号(7月9日発表)参照。

(9) イチモンジセセリ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 **並**

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 7月27～28日の巡回調査によると、発生圃場率は5.6%で平年(2.7%)並であった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月27～28日の巡回調査によると、発生圃場率は35.6%で平年(9.6%)より高かった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(11) カメムシ類

予報内容

発生量 **やや少**

予報の根拠

- ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬のアカスジカスミカメの誘殺数は57頭で、平年(651.6頭)より少なかった。また、真庭市の予察灯における7月1～5半旬の誘殺数は、12頭で平年(94.4頭)より少なかった。
- イ. 7月17、27日の県北部イネ科牧草地のすくい取り調査(20回振り)では、アカスジカスミカメの発生量は1地点当たり11.2頭で平年(144.6頭)より少なかった。
- ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 県予察圃場(赤磐市)のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は487頭で、平年(218.8頭)よりやや多かった。
- イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

2 果 樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平年(83.2頭)より少なかった。
- イ. 7月20日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(4.1%)より低かった。
- ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は

ほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(2) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は23頭で、平年(45.7頭)より少なかった。

イ. 7月20日の巡回調査によると、発生圃場率は35.7%で平年(47.4%)並であった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(3) ハダニ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月20日の巡回調査によると、発生圃場率は53.6%で平年(30.2%)よりやや高かった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(ブドウ)

(1) さび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月20日の巡回調査によると、発生圃場率は9.1%で、平年(0.9%)より高かった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月20日の県予察圃場での発病葉率は36.7%で平年(43.9%)並であった。

イ. 7月20日の巡回調査によると、発生圃場率は36.4%で平年(19.1%)より高かった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(3) ベと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月20日の県予察圃場での発病葉率は93.6%で平年(23.3%)より高かった。

イ. 7月20日の巡回調査によると、発生圃場率は100%で平年(70.9%)より高かった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

防除上の参考事項

ア. ブドウべと病に登録のあるストロビルリン系及び作用点が同一の殺菌剤(アゾキシストロビン剤、クレソキシムメチル剤、ファモキサドン剤)に対して感受性が低下した耐性菌が本県の一部で確認されている。本系統の殺菌剤の使用は1作期1回とし、他系統の殺菌剤と組み合わせて使用する。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月20日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(5) フタテンヒメヨコバイ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(2.1%)並であった。

3 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は0.1%で、平年(47.4%)より低かった。

イ. 7月20、22日の巡回調査によると、発生圃場率は40.0%で平年(67.4%)よりやや低かった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は3.2%で、平年(25.3%)より低かった。

イ. 7月20、22日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%で平年(41.4%)より低かった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は

ほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は86.9%で平年(24.0%)より高かった。

イ. 7月20、22日の巡回調査によると、発生圃場率は40.0%で平年(44.5%)並であった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 **やや遅**

発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. 7月20、22日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(4.3%)よりやや低かった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 7月20、22日の巡回調査によると、発生圃場率は11.1%で平年(15.4%)並であった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 7月20日の巡回調査によると、発生圃場率は33.3%で平年(36.0%)並であった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. 7月22日の巡回調査によると、ダイコンでの発生圃場率は16.7%で平年(25.1%)よりやや低かった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)の黄色水盤への7月1～5半旬の飛来数は102頭で平年(66.0頭)より多かった。

イ. 7月20、22日の巡回調査によると、トマトでは発生圃場率が0%で平年(42.5%)より低く、キュウリでは60.0%で平年(38.3%)よりやや高かった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 7月22日の巡回調査によると、露地野菜(ナス、キュウリ)での発生量は平年並であった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は487頭で、平年(218.8頭)よりやや多かった。

イ. 7月20、22日の巡回調査によると、ナス、キュウリでは平年同様発生を認めなかった。

ウ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

4 花き類

(キ ク)

(1) ハダニ類

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 7月20、22日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(5.8%)よりやや低かった。

イ. 7月30日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は

ほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、 <http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

